

## 編集後記

遅くなりましたが、2014 年 12 月号をお届けします。まず、巻頭言は板橋先生に「ICFIA で呪いを解く」と題していただきました。先生の取り組みも含めて執筆していただきましたが、確かに ICFIA FUKUOKA は女性が大活躍でした。

指標は石田先生よりご寄稿いただきました。マイクロ流路ベースの小型分析機器の開発は実用上、今後ますます重要な位置を占めていくものと思います。

1 2 月号には毎年 JAFIA 受賞者の方々のプロフィールを掲載しています。受賞者の皆様には心よりお喜び申し上げます。

八尾先生からはパーソナルレビュー「電気化学からバイオ計測科学への道」をいただきました。バイオ電気化学、FIA およびセンサへの応用など多岐にわたる先生のご研究の推移をわかりやすく解説していただきました。

研究論文として、ブラジルの Lucas さん、および今任先生のグループよりの投稿を掲載しました。フロントラインには森先生からヒ素、セレン、クロムのスペシエーションについて、各種分析法の review をしていただきました。

トピックスには島村先生より抗酸化活性測定法に関する FIA 分析、吉川さんと水口先生からはイムノクロマトを用いたカドミウムイオンの検出法について解説していただきました。

報告記事として、今回は 12 月に開催され

た ICFIA FUKUOKA 2014 の記事を多く掲載しました。執筆にご協力をいただきました多くの先生方、学生さんに感謝いたします。また、小熊先生からは今年度で最後となった Separation Sciences の報告記事をいただきました。学会情報は今回も竹内先生にまとめていただきました。また、鈴木繁喬先生の追悼文を山田先生からいただき、お知らせ欄に掲載しました。

最後に ICFIA の期間中に行われました本年度第二回の編集委員会の様子をお知らせいたします。重要な議題として、編集委員会の表彰制度 (JFIA Selection) について議論しました。今年度分の研究論文から表彰する予定です。今後とも、積極的なご投稿をお待ちしています。

以上、皆様のご協力の下、今回も充実した内容の本ができましたことをうれしく思います。今後とも、近況を含め、皆様からのご寄稿をお待ちしています。

JFIA 編集委員長 長岡